

## 編 集 後 記

今月号には原著論文として石上らによる“直腸切断術における術中体位変換の有用性の検討—Miles 手術と仙骨腹式手術の比較—”が掲載されています。その他、症例報告20編が掲載されていますが、様々な理由で原著論文は英文誌へ投稿されることが多くなっているのが実情です。石上論文は術中体位変換の有用性という、評価の難しい臨床課題に取り組んだものであり、編集委員会でも多くの議論がなされました。著者らは編集委員からの少なくない質問や指摘へ誠実に対応し、本誌のトップを飾る原著論文となっています。

一般的にいて、論文の基盤となるテーマの設定が消化器外科学の進歩発展に寄与するものであれば、原著論文として採用される可能性があります。そして、臨床的検討は、テーマの設定のみならず検討事項の取り上げ方、結果の評価、そして微妙な表現など、母国語での論文作成に向いているとも言えますし、編集委員からの助言にも的確に反応しやすいものです。その意味でも、今後も様々な臨床的疑問点を科学的な手法を用いて明らかにする原著論文の投稿を期待したいと思います。

同様に症例報告の意義は言うまでもなく非常に高く、貴重な症例の積み重ねこそが臨床医学の進歩をもたらし、基礎研究のテーマを提供してくれることとなります。会員の皆様には本号の全ての症例報告にも目を通していただければ、と考えています。

また、論文の投稿に際して、多くの著者は推敲を重ね、投稿規定を守った読みやすく整った原稿を送ってこられますが、稀に評価に取りつかれないほど不備のある場合があります。また、査読結果への反応を、判読できない手書き文章で送ってこられる方も、極めて稀ではありますが現在なおみられます。忙しい日常診療の合間に、貴重な研究成果や症例の報告を広く世に問うために多大な労力を惜しまなかった結果としての論文作成ですから、ぜひ最後の詰めにもエネルギーを費やし、円滑に採用されるよう努めていただきたいと思ひます。

(河野辰幸)